

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070301195
法人名	医療法人岩下会
事業所名	岩下病院グループホームあさがお
所在地	群馬県桐生市宮本町1丁目8-33 (電話) 0277-20-8131

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年10月22日

【情報提供票より】(21年9月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建て 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
または1日当たり			

(4) 利用者の概要(9月27日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	89 歳	最低	84 歳
		最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩下病院、藤江医院、柏瀬歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者同士のかかわりや会話に花が咲き、利用者がきりつとしていて、ご自分を大事にしながら、お互いに折り合いをつけながら生活している様子が見られ、職員の寄り添うケアと尊厳を大切にしていることが基にあると伺える。母体の病院との連携で健康維持と毎日の安心が確保されているホームである。前回の評価では地域との交流がまだ充実していない部分であったが、この1年間でいろいろな可能性を探り、地域との交流に力を入れていることが確認できた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・運営推進会議を生かした取り組みでは議題に現状報告等が挙げら定期的な開催に改善されている。・市町村との連携では、ケアマネジャーが代行申請や管理者が分からないことを電話で市に聞いている。現状に即した介護計画の見直しはモニタリングは月に1回行なっているが、計画の見直しは随時と更新時である。入浴を楽しむことが出来る支援では曜日が決められていて、改善には至っていない。鍵をかけないケアの実践では、まだ前回と同様の状態で改善されていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>前回の外部評価結果について職員で話し合っている。今回の自己評価については、管理者が作成し全職員に見てもらった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に1度開催されている。討議内容は外部評価結果報告・施設の状況報告・防災の説明等があがっている。花見の話題が出て実施に至った。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に要望等話しやすい雰囲気を作り、苦情には速やかに対応し、家族に説明と話し合いを行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事に参加し廃品回収に協力している。桐生祭・えびす講に出かけることで交流を深めるように努力している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来の理念を掲げている。地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念を作成するための話し合いを代表者が他のグループホームと検討中である。	○	代表者・管理者・職員皆で考え「地域」を意識した、施設の旗印としての理念を作り上げてほしい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が掲げられ、各自が理念を目に留め意識して、共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入済だったが、今年は地域の行事にも参加でき廃品回収に協力した。地域のメンバーが集まる運営推進会議に管理者も参加し交流が図られるようになった。また、なじみのある桐生祭・えびす講にも参加している。近隣の方とは散歩時に挨拶を交わしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価結果について職員全員が目を通し、意見を聞いている。運営推進会議の議題に取り上げ、具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価は管理者がまとめその結果を職員に見てもらった。	○	自己評価については、全職員に意見を聞き、各職員の考えを把握してほしい。その上で代表者・管理者でまとめ、作り上げてほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は概ね3ヶ月に1回程度開催されている。施設の利用者状況・外部評価結果報告・夜間火災時の対応についての説明が行なわれている。花見が議題にあがり実施されている。市職員・区長・町会長・近隣商店主・関連グループホーム職員・家族代表が参加している。	○	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャーが介護保険の代行申請を行い市に向いている。また、電話で疑問点等を相談している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等が苦情を言いやすい雰囲気作りを管理者は作っている。身体状況の変化等には家族の来訪時や緊急時は電話で報告している。新入職員を紹介している。費用のかかる事については随時伺っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意している。苦情や意見等には速やかな対応を心掛け家族と良く話し合い改善につなげ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や新規採用の場合は先輩職員を付けて、日勤から始めている。慣れたところに夜勤に先輩職員と一緒に入ってもらう。利用者・家族に紹介し、挨拶をして利用者へのダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会には職員が交代で参加している。法人内研修に参加したり、実践者研修にも参加している。研修後は研修報告書を作成し共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。管理者は同業者との交流は必要であると考えてはいるが、この1年間は交流はない。ブロック研修と交流には参加可能な場合は出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から入居になるケースでは家族に見学してもらい入居につなげている。他のケアマネジャーからの紹介では、本人・家族が見学し入居につながっている。管理者が事前に入居予定者と会うことはまだない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは昔の話しの中から「生活の知恵」を教えてもらっている。台所に入り食事の味見をしてくれたり、下準備を手伝ってもらったりしながら一緒に生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、本人の話聞き希望をかなえる様にしている。買物の希望があれば職員と一緒に出かけたり、家族との食事・昼寝・家族への電話等の希望の把握も行い、本人本位で生活の継続支援を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等から意向を確認し要望を聞き、記録を行いケアマネジャーが作成している。職員会議で確認を行い、介護計画に反映させるようにしている。家族の同意は面会時に行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度のモニタリングが行なわれているが、見直しが随時と更新時になっている。	○	月に1度のモニタリングを利用して、状態に変化が無くても、随時の見直しの他に3ヶ月に1度の見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の希望や状況に応じて、通院支援・買物支援を家族に代わり行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族・本人に協力医の説明して、意向を確認し、利用者のほとんどが協力医から医療を受けている。また希望により口腔ケアの往診や泌尿器科の往診等の支援がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り同意書」が交わされている。職員が内容を把握して確認している。かかりつけ医との連携もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄等の言葉かけや対応には尊厳を傷つけないように配慮している。呼び方は本人希望の呼び方を行なっている。個人記録等は事務所で管理し、職員とは入職時に秘密保持の誓約書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やその時の気持ち等を尊重しながら、テレビ・ぬり絵等の好きなことを自由にやらせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
tok					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから買物は職員が行なっている。同じものを利用者と職員は食べている。片付けは利用者と一緒にしている。食べられないメニューの場合は代替のメニューを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は週3回の入浴日・シャワー浴日が設定されている。管理者は職員体制等で余裕が出れば改善したいと考えている。	○	職員体制の状況等により、曜日を決めずに工夫しながら利用者の希望したタイミングで入浴できる体制確保に努力してほしい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望により、テレビ・ぬり絵等の楽しみごとや、カラオケ・外出・利用者同士の将棋・レクリエーション・併設デイサービスのイベントへの参加・体操で気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調・希望に応じて、散歩や系列グループホームを訪問したり、買物・併設デイサービスのイベント参加等の外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建ての2階部分でエレベーターがあり、階段はあるが利用していないこともあり、エレベーターに施錠している。施錠については運営推進会議でも取り上げている。	○	構造上の問題はあるが、職員が帰宅願望の強い利用者の見守りに工夫して、鍵をかけない状況を希望する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回(21年3月と6月)とも防災管理センターの業者立会いの基での避難訓練と消火・通報訓練を実施している。近隣住民への協力依頼も行なっている。		年に2回は消火訓練等の実地訓練をしてほしい。また、災害時に地域住民の協力を得られるよう、具体的な協力体制づくりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた家庭料理を基本に提供している。水分量は1日1000CCを目安に、トータル量がチェック表に記録されている。10/10という方法で記載し、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は作品や写真が飾られている。天井が高くベランダからは桐生の山並みがよく見える。テレビ・テーブル・椅子が置かれている。花が飾られ季節が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には暖簾がかけられ、仏壇・衣装ケース・箆笥・テレビ・時計・椅子・テーブル・写真・絵等の馴染みのあるものや好みのものが持ち込まれている。		